

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	保幼小中が一体となり、「つながり」を深める。	教科指導(教育課程)を通じて、保幼小、小中、小小のつながりを深める。 Plan ・合同授業研で教科や教科外(支援・養護)部会の実施	H29年度の成果をもとに、各校の交流を深め、それぞれの園・学校で実践にうつしていく。[生活面も含む] ・月1回の小中担当者会の実施 ・合同授業研の実施 Do (掲示物・カリキュラム・連携カリキュラムなど)	H29年度・H30年度の成果をもとに、目標実現にむけて、実践等の交流を深める。 ・月1回の小中担当者会の実施 ・合同授業研の実施 See ・課題を把握し、改善していく。
確かな学力の育成	自ら考えよりのよく行動する	「心豊かによりよく生きる子どもを目指して～自ら考え行動する力の育成～」 ・教員の授業力向上を図る 研究授業・校内研修の実施 ・外国語活動の推進 モジュール授業の試行 ・学力・学習状況調査の分析・考察 ・思考を表出させる 思考ツールの活用 ・情報機器の活用 タブレットを活用した授業づくり ・ユニバーサルデザインを活かした授業 ・朝学習の充実し、基礎基本の徹底 ・算数ダッシュの充実	1年目の取組みの成果と課題を検討し目標に照らし合わせ、再度組み立てなおす。 ・教員の授業力向上を図る 研究授業・校内研修の実施 ・外国語活動の推進 モジュール授業の試行 ・学力・学習状況調査の分析・考察 ・思考を表出させる 思考ツールの活用 ・情報機器の活用 タブレットを活用した授業づくり ・ユニバーサルデザインを活かした授業 ・朝学習の充実し、基礎基本の徹底 ・算数ダッシュの充実	2年目の取組みの成果と課題を検討し、目標に照らし合わせ総括を行う。 ・教員の授業力向上を図る 研究授業・校内研修の実施 ・外国語活動の推進 モジュール授業の試行 ・学力・学習状況調査の分析・考察 ・思考を表出させる 思考ツールの活用 ・情報機器の活用 タブレットを活用した授業づくり ・ユニバーサルデザインを活かした授業 ・朝学習の充実し、基礎基本の徹底 ・算数ダッシュの充実
豊かな人間性を育む	共に学ぶ集団を仲間を認め合い	・各学年の重点目標の達成 ・集団づくりの取組みの推進 ・いじめを許さない集団づくり ・食肉プロジェクトの取組み ・道徳教育の充実	・各学年の重点目標の達成 ・集団づくりの取組みの推進 ・いじめを許さない集団づくり ・食肉プロジェクトの取組み ・道徳教育の充実 ・男女共生教育の推進	2年目の取組みの成果と課題を検討し、目標に照らし合わせながら総括を行っていく。
健康・体力の増進	自ら楽しんで、運動する子の育成	・体育の授業で授業力向上 教具・教材の工夫 茨木っ子運動 校内実技研修 ・休み時間で 遊具の充実 マラソン週間 クラスのみんな遊び 友達学級との遊び ・保健体育科の授業の充実 ・食育 ・安全・防災教育の充実	・体育の授業で授業力向上 教具・教材の工夫 茨木っ子運動 校内実技研修 ・休み時間で 遊具の充実 マラソン週間、朝ラン クラスのみんな遊び 友達学級との遊び ・保健体育科の授業の充実 ・食育 ・安全・防災教育の充実	2年目の取組みの成果と課題を検討し、改善を行い、総括を実施する。
支援教育の充実				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

国語A

(領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと
良好な結果であった
- ② 書くこと
やや課題が残る結果であった
- ③ 読むこと
大変良好な結果であった
- ④ 言語事項
良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
良好な結果であった
- ② 短答式
概ね良好な結果であった
- ③ 記述式
対象問題なし

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

最も正答率が低かった問題

「春休みの出来事の一部」の中で点線部と実線部のつながりがあっていない分を選択し正しく書き直す。

国語B

(領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと
良好な結果であった
- ② 書くこと
良好な結果であった
- ③ 読むこと
良好な結果であった
- ④ 言語事項
対象問題なし

(問題形式)

- ① 選択式
良好な結果であった
- ② 短答式
対象問題なし
- ③ 記述式
良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

最も正答率が低かった問題

「おすすめする文章」に虫歯を防ぐ効果について「保健室の先生からわかったこと」を取り入れて詳しく書く。

分析

A

- ・「書くこと」には課題が見られるが、それ以外の項目で全国平均を上回っており、基礎が定着している。
- ・「読むこと」が全国平均を大きく上回っているが、文章全体の構成の効果を考える問題のみ平均より低い結果だった。選択肢の文章の理解が難しかったため正答率が低かったと考えられる。
- ・「言語事項」では漢字一字は正しく覚えている。ただし文の中で正しく漢字を使うことには課題がある。
- ・無解答率が高いのが最後の漢字の3問なので、時間が足りなかったか、問題形式に慣れていないことが考えられる。

B

- ・「書くこと」で自分の考えを書く問題が全国平均を上回っているのは、授業の中で振り返りなどを書く機会を作っている成果だと考えられる。ただし、制限字数で文章を書く問題はまた課題が見られる。
- ・複数の文章から必要な情報だけを抜き取り、一つの文にまとめる問題の正答率が低い結果だった。
- ・2のように文章を要約する力は全国と同様に課題が見られる。
- ・すべての項目で良好な結果であった。

AB 共通

- ・選択式問題で後半になると無解答率が上がっている。途中の解けない問題で時間を使い過ぎているようである。時間配分に課題があると思われる。

〇●算数●〇

算数A

(領域ごと)

①数と計算

良好な結果であった

②量と測定

概ね良好な結果であった

③図形

概ね良好な結果であった

④数量関係

良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

良好な結果であった

③記述式

対象問題なし

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

最も正答率が低かった問題

答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ

算数B

(領域ごと)

①数と計算

良好な結果であった

②量と測定

良好な結果であった

③図形

良好な結果であった

④数量関係

良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

良好な結果であった

③記述式

良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

最も正答率が低かった問題

メモ1とメモ2は、それぞれグラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く。

分析

A

- ・4領域ともに本校の平均は大阪府平均・全国平均と比べて高い。
- ・授業開始時に学力定着プリントを実施しているため、数と計算の項目で正答率が高かった。
- ・概ね良好であるので、基礎的な力については、ただ円周率を求める式についての問題の解答率には課題が見られた。公式を覚えることは出来ているが、その過程の理解が弱かったのではないかと考えられる。
- ・全国平均と比べて無解答率が高かった。

B

- ・すべての設問で正答率が全国平均を上回っている。
- ・全体的に平均して高い数値となっているので、確かな学力がついてきていると考えられる。
- ・言葉や式を使って説明する問題の無解答率が高い傾向にある。
- ・全国平均と比べると、無解答率が高かった。

AB 共通

- ・選択式問題で後半になると無解答率が上がっている。途中の解けない問題で時間を使い過ぎているようである。時間配分に課題があると思われる。

(領域ごと)

- ①物質 良好な結果であった
- ②エネルギー 概ね良好な結果であった
- ③生命 概ね良好な結果であった
- ④地球 概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ①選択式 概ね良好な結果であった
- ②短答式 概ね良好な結果であった
- ③記述式 概ね良好な結果であった

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

最も正答率が低かった問題

一度に流す水の量と棒の様子との関係から大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く。

分析

- ・短答式の問題が特に低く、用語の定着ができていないと考えられる。
- ・科学的な思考・表現の解答率が低い傾向がある。
- ・2つの実験の結果を分析し考察する問題の正答率が低く、多くの情報から答えを導き出すことに課題がある。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・昨年より正答率が上がっている。
- ・昨年度までの無解答率は増加傾向であったが、今年度は減少した。

学力高位層と学力低位層、エンパワー（EP）層についての分析

- ・国語・算数ともに高位層の割合が増え、低位層が減った。
- ・低位層はこここのところ徐々に減少傾向にあり、今年は市の平均を下回った。

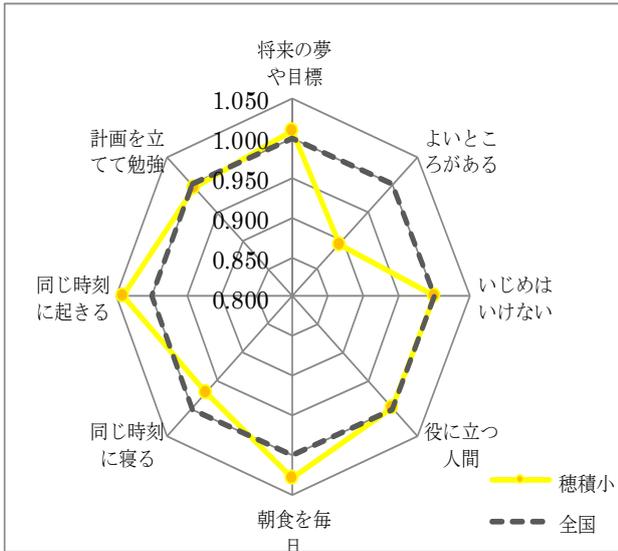
○●取組み●○

学力向上に関する取組み

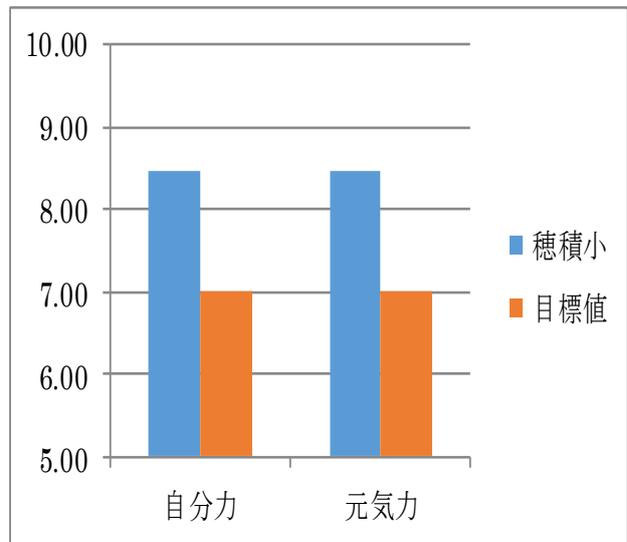
- ・算数ダッシュ（学力定着プリント）は引き続き行い、基礎計算力をつけていく。
- ・モジュールタイムの導入によるカリキュラムの変更に伴い、効果的な学習計画を考えていく。
- ・自分の考えや学習した内容をまとめて要約し文章で表現する学習活動を、どの教科でもさらに充実させていく。授業後のふりかえりも引き続き行う。
- ・普段から習った漢字は文章の中に使うよう指導し、学習内容が普段の日常生活に活かせるよう力をつけていく。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は8項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

- ・「どちらかといえば当てはまる」という回答が多いところもあるが、全体的に肯定的な回答が多い。
- ・ほめてもらっていないと感じている子が全国平均より低い傾向があり、全国平均と比べて自己肯定感が低い。
- ・「同じ時刻に起きる」「毎日朝食をとっている」の項目が高く、規則正しい生活習慣がついている児童が全国と比べて多い。
- ・1日当たりの読書の時間が全国平均より高い。
- ・家庭学習に関する質問が全国平均より高いので、学習習慣がきちんと身につけていると考えられる。

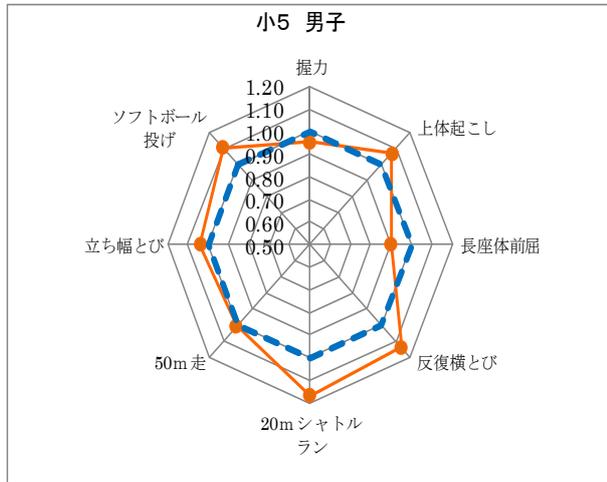
取組み

- ・研究で取り組んでいる道徳の授業を基にして子どもたちの自己肯定感を高める授業づくりを行っていく。
- ・学校全体で家庭学習への取組みを啓発していく。
- ・今後も生活チェックを継続し、基本的な生活習慣を身に付けていく必要がある。
- ・自己肯定感を高めるために、たがいを認め合う集団づくりを行っていく。
- ・教師が子どもの良さを認め、様々な場面で褒める。

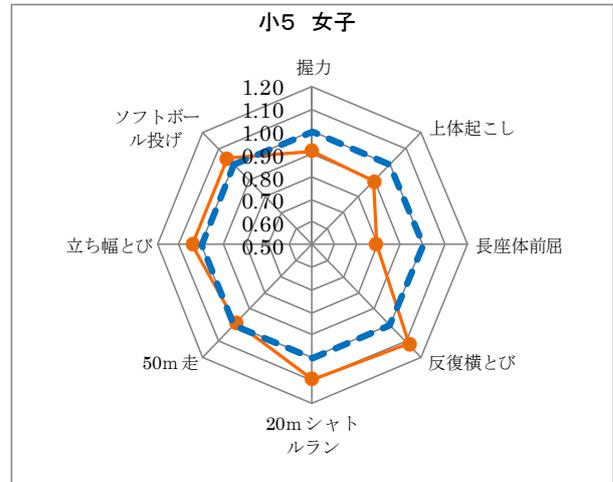
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○○●体力●○○

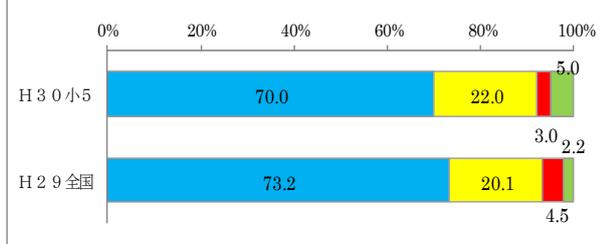
男子 (小5)



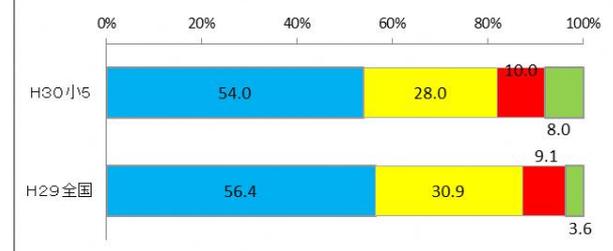
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

分析

- ・男女共にシャトルラン、反復横跳びで全国平均を上回っている。
- ・男女共に毎年握力に課題がみられる。
- ・長座体前屈が去年平均と比べると低くなっている。
- ・全国平均に比べて運動・スポーツが好きですかの問いに肯定的に回答している児童の数が少ない。
- ・得意、不得意の差が激しい。

取組み

- ・柔軟性の向上のためまげまげピンの活用。
- ・鉄棒、上り棒をうまく活用したり、グーパー体操を取り入れ握力アップに繋げる。
- ・楽しく体を動かすために外遊び(外に出ようデイ)を引き続き推進する。
- ・外遊びで使える道具を充実させる。
- ・体力向上のため朝ランの推進。